

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	2	ぬくもり・雄武	整理番号	23
基本施策	7	高齢者支援の充実	評価 責任者	保健福祉課長 豊田 通敏
単位施策	1	地域包括ケアの推進		老健事務長 高橋 健仁

1 施策の概要

基本方針	町（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、保健福祉課）、介護サービス事業所、医療機関、地域等が連携しながら、高齢者一人ひとりの生活課題を的確に把握し、サービス担当者会議や地域ケア会議等を通じて情報共有を図りながら、生活の質の維持・向上に努めるとともに、介護サービスについては、重度要介護状態になっても地域で安心して暮らしていただけるよう、状態の改善、重度化予防を目指す予防サービスの充実を図ります。			
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）		
	介護保険制度が導入されて以来、特別養護老人ホームをはじめ通所介護、訪問介護、短期入所などが介護サービスに組み込まれ、更に本年3月から国保病院療養病床26床を介護老人保健施設に転換し、介護保険サービスの充実と介護保険外の保健福祉サービスの充実に努め、高齢者支援の柱となっている。		地域包括支援センターが中心となり地域ケア会議や介護サービス事業者を参集したサービス担当者会議において、支援の必要な高齢者に対して、町内の限りある資源の中でその人にあった介護サービス等の提供に努めている。	
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）		
	介護や医療的ケアが必要な在宅の高齢者が安心して暮らしていただけるよう、事業所における人材確保、サービス基盤整備の誘導を図るとともに、利用者本位のサービス提供を図るため、介護保険サービスの質の向上を図らなければならない。		地域包括ケアシステムの要素にある「生活支援」の面においては、今後増加が予想される認知症や単身高齢者の方に対する見守りや安否確認等の活動をおこなう地域力の向上が必要であり、地域住民の理解促進とボランティアの育成が急がれる。また「医療」の面においては地域性から在宅医療の推進が難しい。	

2 基本施策指標

指標1	指標名	訪問介護の年間利用延回数					
	定義等	介護サービスの利用数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						2,000回
	実績値		1,715回	1,242回	1,456回	1,547回	
指標2	指標名	介護保険施設入所者数					
	定義等	施設入所者数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						100人
	実績値		97人	91人	90人	87人	
指標3	指標名	デイ・サービスセンターの月平均利用人数					
	定義等	施設利用者数					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						410人
	実績値		394人	362人	385人	398人	
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	訪問看護事業	保健係	927	A	継続/現状維持	A
②	地域支援事業（保健係分）	保健係	731	A	継続/現状維持	A
③	指定訪問介護事業運営補助事業	社会福祉係	3,273	A	継続/現状維持	A
④	介護サービス利用者負担軽減事業	社会福祉係	657	A	継続/現状維持	A
⑤	特別養護老人ホーム等整備事業	社会福祉係	18,674	A	継続/現状維持	A
⑥	高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定事業	保険給付係	3,228	A	継続/現状維持	A
⑦	介護認定審査会資料作成システム更新事業	保険給付係	0		継続/現状維持	
⑧	居宅介護支援運営事業	介護予防・在宅支援係	577	A	継続/現状維持	A
⑨	介護予防支援運営事業	介護予防・在宅支援係	215	A	継続/現状維持	A
⑩	地域包括支援センター運営事業①	介護予防・在宅支援係	1,271	A	継続/現状維持	A
⑪	地域包括支援センター運営事業②	介護予防・在宅支援係	5,713	A	継続/現状維持	A
⑫	特定高齢者把握事業	介護予防・在宅支援係	1,060	A	継続/現状維持	A
⑬	社会福祉協議会運営支援事業	社会福祉係	20,000	B	継続/現状維持	B
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	重度の要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる地域包括ケアシステムの構築に向け、町内高齢者の実態把握から地域ケア会議における関係者間での協議、ケアマネジメント、サービス提供までをおこなっており、本施策は政策目標達成のために不可欠である。
② 有効性	B	町内の限られた社会資源の中で最大限の効果が得られているが、単位施策の更なる推進には老人クラブや自治会等の地域住民や民生委員との連携についても強化していく必要がある。
③ 効率性	A	高齢者の実態把握から地域ケア会議における関係者間での協議、ケアマネジメント、サービス提供までの必要な事務事業の構成は妥当かつ効率的である。
④ 公平性	A	町内に住むすべての高齢者を対象としており施策達成に向けた各事業は公平である。
⑤ 町民意見の反映	A	高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定時の日常生活圏域ニーズ調査の実施のほか、計画策定委員会を組織し意見を聞いている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
高齢者が住みなれた雄武町で人生の最後まで暮らせるよう支援していく本施策は政策目標達成のために欠かせないものである。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
高齢者が住みなれた雄武町で人生の最後まで暮らすために、地域包括支援センターを中心として、地域包括ケアには欠かせない地域との連携強化に向けた取り組みをさらに進めていく。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止